

定置漁業の概要

一般社団法人日本定置漁業協会 玉置泰司

1. 制度上の位置づけ

(1) 定置漁業権に基づく定置漁業は、身網の設置される場所の最深部が最高潮位時に水深 27m 以上（沖縄では 15m 以上）であるもの。及び北海道でサケを主たる漁獲物とするもの。

(2) それ以外の定置網は第 2 種共同漁業に該当する。漁業を営む者が一部の組合員に固定しているものは、知事許可漁業とするよう水産庁の通達（昭和 57 年水産庁振興部長通達）。

各県の漁業調整規則で知事許可漁業に小型定置網を入れていない県は富山、大分、なお秋田は「建網」、岡山・広島は「つぼ網」が入っている。

なお、農林統計の区分では、(1) の前半は「大型定置網」、後半は「さけ定置網」、(2) は「小型定置網」と区分している。このため以下で統計数値を用いる場合はこの区分となる。

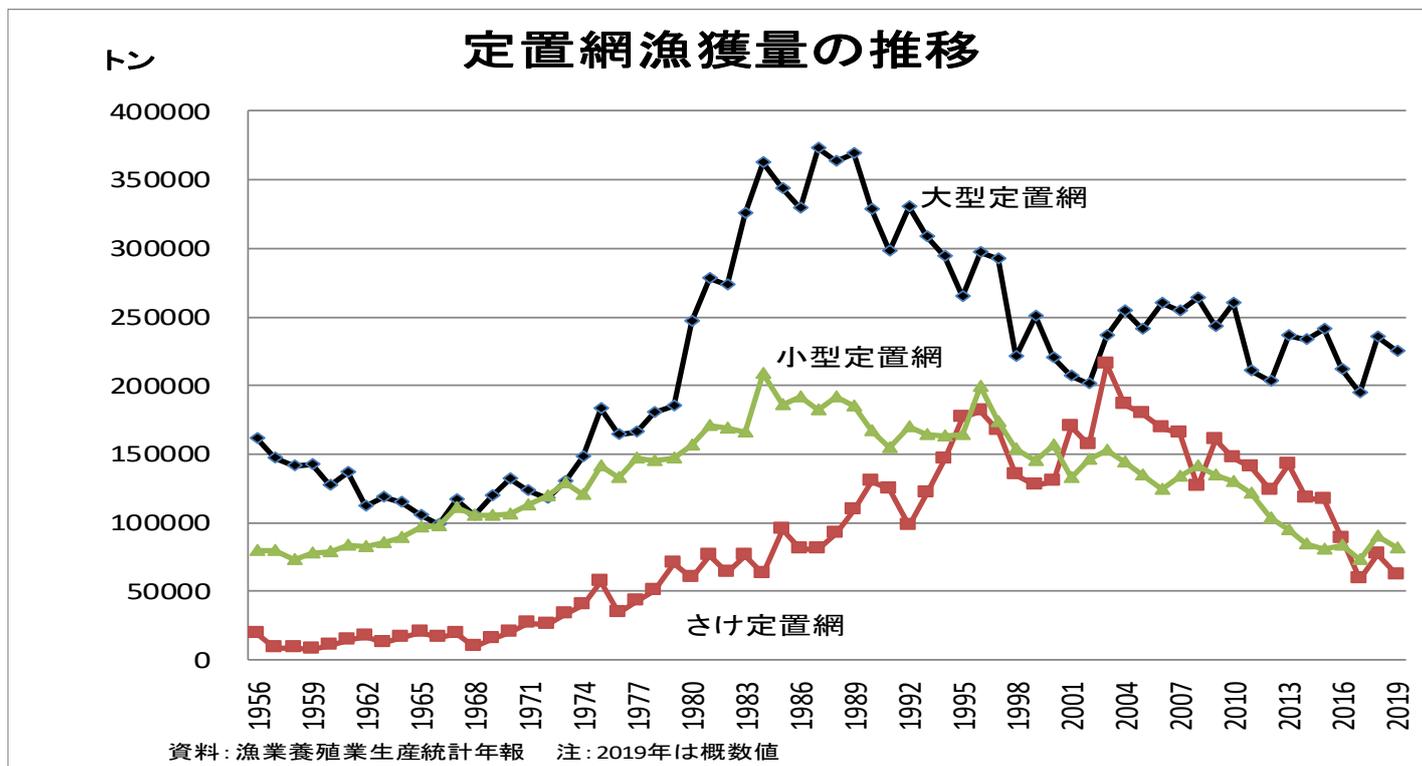
2. どれくらいの定置網が営まれているのか

(1) 定置漁業権の免許数は、令和元年 9 月時点で 1,604 ある。

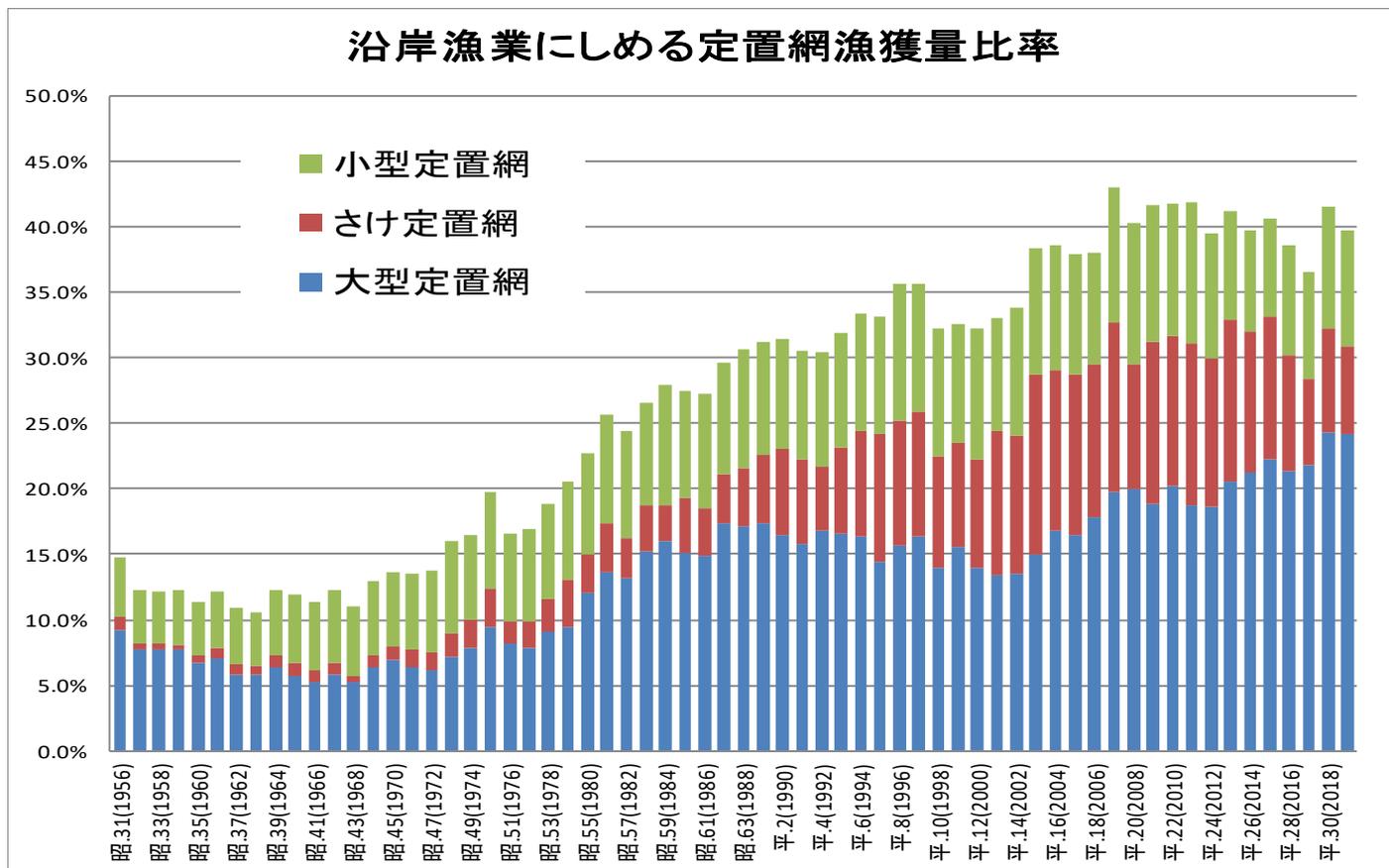
(2) 2018 年漁業センサスでは、「主とする漁業経営体数」は、大型定置網 409、さけ定置網 534、小型定置網 2,293 であった。「営んだ漁業経営体数」は、大型定置網 439、さけ定置網 792、小型定置網 3,869 であった。

3. どれくらいの漁獲量があるのか

2019 年(概数値)の漁獲量は、大型定置網 225,300 トン、さけ定置網 61,900 トン、小型定置網 81,800 トンであった。大型定置網は 1980 年代後半にピークを迎え、その後減少し、2000 年代に入ってから横ばいから減少傾向にある。さけ定置網は 2003 年にピークを迎えて初めて 21 万トンを超えたが、その後減少傾向にある。小型定置網は 1984 年に初めて 20 万トンを超えてピークを迎えたが漸減し、1996 年に再び 20 万トン近くまで増加したが、その後減少傾向にある。



沿岸漁業漁獲量に占める定置網漁獲量の比率は上昇し、2007年に初めて4割を超え、2019年には39.7%であった。比率としては大型定置網は2003年以降増加傾向にあり、2018年には過去最高の24%まで達した。さけ定置網は2001年から2015年まで10%前後を占めたが、その後割合が下がっている。小型定置網は2007年から2011年まで10%を超えたが、その後7~9%台となっている。



4. どれくらいの漁獲金額があるのか

農林統計では、2006年までは漁業種別水揚げ金額が公表されていた。2006年においては、大型定置網542億円、さけ定置網585億円、小型定置網329億円であった。

2018年漁業センサスによれば、1経営体当たりの平均漁獲金額は、大型定置網1億39百万円、さけ定置網93百万円、小型定置網1千万円であった。これを「主とする経営体数」に乗じたものを総漁獲金額と推計すると、2018年は大型定置網570億円、さけ定置網497億円、小型定置網229億円となる。なお、「営んだ経営体」のうち、定置網を主としない経営体による定置網漁獲金額は、この数字には含まれない。

販売金額別経営体数比率

	経営体数合計	販売金額無し	100万円未満	100~300万円	300~500万円	500~800	800~1000	1000~1500	1500~2000	2000~5000	5000万~1億	1~2億	2~5	5~10	10億円以上	平均販売金額(百万円)	総漁獲金額推計値(億円)
大型定置網	409	0.0%	0.7%	1.5%	1.5%	2.2%	0.5%	3.7%	2.7%	15.9%	30.8%	22.7%	15.4%	2.2%	0.2%	139	568.5
さけ定置網	534	2.8%	1.1%	3.4%	6.4%	4.5%	5.4%	6.4%	7.1%	25.1%	18.7%	10.1%	7.5%	0.9%	0.6%	93	496.6
小型定置網	2,293	0.9%	12.9%	25.2%	18.2%	12.4%	7.4%	7.9%	3.9%	8.0%	2.5%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	10	229.3

5. どんな魚を漁獲しているのか

2019年の漁獲量をみると、大型定置網ではマイワシ、サバ類、ブリ類、マアジ、サケ類などを漁獲し、さけ定置網ではサケ・マス類のほか、ホッケ、イカ類、ブリ類などを漁獲し、小型定置網では、サケ・マス類、ホッケ、マイワシ、マアジ、ブリ類などを漁獲している。なお、定置網は回遊する魚種を待ち受ける漁法であるため、獲

れる魚種も年変動が大きい。

大型定置網主要魚種別漁獲量

単位：t

年次	計	まいわし	さば類	ぶり類	まあじ	さけ類	いか類	さわら類	かたくち いわし	そうだが つお類	たい類	うるめい わし	むろあ じ類	くろまぐ ろ	さんま	すけとう だら	その他
2014	233,631	31,786	38,803	39,367	13,968	17,260	21,042	8,105	24,997	4,656	1,775	2,125	1,634	1,631	825	883	24,774
2015	241,179	43,333	50,099	42,729	16,822	10,913	14,380	10,157	13,701	7,693	1,852	1,803	1,218	1,141	362	309	24,667
2016	211,674	39,572	44,877	37,736	13,945	9,129	7,974	11,588	9,272	6,461	1,726	2,106	1,244	1,078	59	12	24,895
2017	194,236	32,460	33,724	46,868	12,522	7,643	8,114	7,452	11,499	3,368	1,643	1,790	1,150	2,024	181	292	23,506
2018	234,624	79,506	40,180	39,877	11,779	9,236	8,470	7,745	5,509	5,451	1,741	1,350	788	596	293	112	21,991
2019	225,300	49,000	60,200	49,600	11,000	2,400	6,600	7,400	7,700	3,600	1,700	1,300	1,000	900	200	200	22,500

資料：漁業養殖業生産統計年報 注：2019年は概数値

さけ定置網主要魚種別漁獲量

単位：t

年次	計	さけ類	ます類	ほっけ	いか類	ぶり類	その他
2014	117,365	107,865	671	1,419	2,244	2,232	2,934
2015	116,638	107,763	262	526	2,136	2,151	3,800
2016	88,560	77,739	2,493	970	331	2,486	4,541
2017	59,076	51,150	347	284	157	1,951	5,187
2018	76,510	63,996	2,411	1,742	161	2,584	5,616
2019	61,900	46,700	700	2,600	2,200	2,800	6,900

資料：漁業養殖業生産統計年報 注：2019年は概数値

小型定置網主要魚種別漁獲量

単位：t

年次	計	さけ類	ます類	ほっけ	まいわし	まあじ	ぶり類	ひらめ・か れい類	さば類	いか類	かたくち いわし	その他
2014	84,558	11,491	2,203	2,820	2,118	4,907	6,072	3,629	3,619	14,929	2,734	30,036
2015	80,814	12,571	3,193	1,394	2,944	5,884	6,434	3,353	4,545	9,634	2,365	28,497
2016	83,048	6,742	11,266	1,793	5,440	5,712	5,695	2,968	4,272	4,790	2,758	31,612
2017	73,005	7,286	1,780	5,394	3,274	5,411	7,486	3,842	2,964	3,480	2,020	30,068
2018	89,776	8,293	7,668	7,509	7,303	5,984	5,093	3,347	3,331	3,197	1,640	36,411
2019	81,800	6,300	1,900	11,000	5,200	5,300	6,800	3,900	3,500	3,600	900	33,400

資料：漁業養殖業生産統計年報 注：2019年は概数値

6. 何人ぐらいが働いているのか

2018年漁業センサス概数値から主とする経営体別に漁業就業者数を見ると、大型定置網 5,036人、さけ定置網 3,891人、小型定置網 5,545人であった。漁業就業者の年齢別分布を5歳刻みの年齢階層区分でみると、大型定置網では60～69歳、さけ定置網では50～69歳、小型定置網では55～75歳以上の各年齢階層区分で10%以上分布している。なお、定置網で受け入れている外国人技能実習生の数は、2020年3月1日時点で178人であった（すべてインドネシア）。

年齢別漁業就業者数割合（男女計）

資料：2018漁業センサス

	計	15～ 19	20～ 24	25～ 29	30～ 34	35～ 39	40～ 44	45～ 49	50～ 54	55～ 59	60～ 64	65～ 69	70～ 74	75歳 以上
大型定置網	5,036	1.8%	4.7%	6.0%	8.7%	9.3%	9.3%	9.7%	9.4%	9.8%	11.0%	10.4%	7.1%	2.7%
さけ定置網	3,891	0.4%	4.3%	6.0%	9.4%	9.2%	9.6%	9.0%	11.1%	11.4%	10.8%	10.3%	5.4%	3.1%
小型定置網	5,545	0.7%	2.3%	3.4%	4.5%	5.6%	6.1%	6.9%	7.5%	10.4%	13.5%	16.3%	10.7%	12.0%

7. 新規就業者

2018年漁業センサスによると、新規就業者数については、全ての経営体では1,862人いた。定置網では、大型定置網を中心に漁業雇われで多く参入しており、定置網の新規就業者数の合計値は、沿岸漁業全体の実に約2割を占めた。

新規就業者数

経営体階層	新規就業者数		
	計	個人経営 体の自家 漁業のみ	漁業雇 われ
大型定置網	172	1	171
さけ定置網	26	-	26
小型定置網	59	8	51
定置網合計	257	9	248
沿岸漁業に 占める比率	20.1%	2.0%	29.7%

資料：2018年漁業センサス

8. どこの県で多いのか

2018年漁業センサスから、営んだ経営体数を見ると、大型定置網では、岩手50、長崎48、北海道32、石川29、富山28、三重26、高知25などが上位である。さけ定置網は北海道だけで792ある。小型定置網は北海道1,059、青森563、長崎280、秋田161、宮城137、徳島118、三重110などが100を超える道県である。

営んだ漁業種類別経営体数

都道府県	大型定置網	さけ定置網	小型定置網	合計	都道府県	大型定置網	さけ定置網	小型定置網	合計	都道府県	大型定置網	さけ定置網	小型定置網	合計	都道府県	大型定置網	さけ定置網	小型定置網	合計
北海道	32	792	1,059	1,883	広島	-	-	93	93	京都	18	-	42	60	佐賀	1	-	32	33
青森	16	-	563	579	福岡	-	-	90	90	愛媛	-	-	60	60	和歌山	4	-	18	22
長崎	48	-	280	328	熊本	2	-	79	81	岡山	-	-	58	58	千葉	8	-	11	19
秋田	5	-	161	166	福井	20	-	60	80	高知	25	-	33	58	大阪	-	-	11	11
宮城	20	-	137	157	石川	29	-	50	79	兵庫	2	-	53	55	鳥取	-	-	5	5
三重	26	-	110	136	山口	9	-	70	79	島根	19	-	32	51	山形	-	-	4	4
徳島	2	-	118	120	宮崎	9	-	67	76	神奈川	18	-	29	47	東京	-	-	2	2
鹿児島	20	-	95	115	大分	-	-	73	73	富山	28	-	18	46	茨城	1	-	-	1
岩手	50	-	62	112	香川	2	-	69	71	新潟	10	-	33	43					
静岡	10	-	95	105	愛知	-	-	61	61	沖縄	5	-	36	41					

資料：2018漁業センサス